

# 在日コリアン一世の指示詞の運用

金 智 英\*

キーワード: 在日コリアン, 自然習得, 指示詞, 定型表現, 心的距離

## 要 旨

本研究は在日コリアン一世(以下, 一世とする)を研究対象とし, その日本語の運用を記述することを目的とするものである。一世の日本語は, 音韻・語彙・語法など多方面にわたって独特な使用が見られ, 中間言語や言語接触などといった分野から研究されてきた。

一世の独特な日本語は, 彼らが長い間にわたって経験してきた複雑な歴史的・社会的背景の中で, 明示的な形で教育を介さない, 自然習得されたものであり, 今は日常生活を営むための手段として定着している。

このような一世の日本語を記述する一つの試みとして, 本稿は指示詞の運用の実態を明らかにしようとするものである。今回のインフォーマントとなる一世は Y, P, B の三人である。三人の指示詞を分析した結果からは, 次のような傾向が見られた。まず, いわゆる 定型表現 が確認された。また, ア系指示詞の使用には何らかの心的距離が関わる可能性が推測できる。最後に, ソ系指示詞とア系指示詞の使用領域における境界線が曖昧であった。その原因については母語からの転移という可能性の他に, より詳細な調査分析が必要とされる。

## 1. 在日コリアンの言語事情

在日コリアン一世の言葉は, いわゆる‘なまり’のある響きで知られており, 音韻・語彙・語法での特徴がよく言及されている。すなわち, 長い間にわたって経験してきた複雑な歴史的・社会的背景の下で, その独特な日本語は日常生活を営むための主な手段として定着している。

在日コリアンはコリアン同士の地域的コミュニティを形成して暮らしている場合が多い。また, そのような地域的な集住という可視的な形の他に, 特に一世においては人と人とのつながりをもって形成されているネットワークという形も存在する。地域的な集住やコリアン同士のネットワーク作りの歴史は渡日の初期から続いており, 一世の持つ特殊な歴史・社会的な背景の産物であるコリアンコミュニティは, 一世の日本語習得に深く関わってきた。一世の大多数は学校での

\* KIM Jee Young: 大阪大学大学院博士後期課程。

教育など明示的な形での日本語学習経験がなく、耳だけに頼って日本語を習得してきたものと考えられる。また、聴覚的な印象に頼っている一世の日本語習得も、現在はほとんど停止し、いわゆる‘化石化’されたものであると見られる。そのために一世の日本語は日本語母語話者には不自然な響きを与える場合が多い。しかし、一世はその言語をもって互いに影響を及ぼしながら意思疎通を行っているのである。

このような一世の言語を言語研究の対象として、言語接触や第二言語習得などといった観点からの研究がなされている。例えば、言語意識に関するもの(任 1993)を始めとして、言語生活に関するもの(生越 1991)、言語運用に関するもの(金 1998)などがあるが、具体的な言語項目に関する記述研究はまだ乏しい現状である。

本研究は、一世の言語に見られる不自然さが‘一時的な誤用’ではなく、何らかの体系の中で運用されているものであると捉える立場に立っている。このような考え方の下に、一世の言語運用を具体的な項目に限定して詳細に記述することを目的とし、その中で本稿は特に指示詞の運用について、その実態を明らかにしようとするものである。

## 2. 指示詞の研究

一世における指示詞の運用を分析するためには、まず、第二言語習得の分野で行われている指示詞に関する研究を参考にする必要がある。その際、第二言語習得研究の分野では、ほとんど顕在的な日本語の学習経験がある者を対象としているので、その点を念頭において考察を行っていく。指示詞研究の多くは、学習者の母語に関係なくソ系指示詞とア系指示詞の間に表れる誤用についての分析が主流をなすと言える。そのような誤用の原因としてははっきりした見解がない中、迫田(1998)ではア系指示詞とソ系指示詞の使い分けにおいて、具体的な名詞の場合にア、抽象的な名詞の場合にソがそれぞれ選択されやすいという結果を得ている。

一方、第二言語習得の分野ではなく、日本語母語話者の場合、話し手、聞き手における共有知識の有無(久野 1973)や話し手、聞き手と指示対象の関わりの強弱(堀口 1978)などがそれぞれ指示詞の使い分けの基準であるという研究結果が出されている。本稿では以上のような研究を参考にしつつ、一世の指示詞の運用を分析していく。

## 3. 調査の概要と分析の手順

インフォーマントは Y, P, B の三人である。この三人の談話資料は採録状態が良好で、話題における共通点が多く、偏りが少ない。本稿ではそれぞれの談話の中に見られる指示詞をすべて取り出し、形態や指示対象などを基準に分類した。但し、発話の意味が分からない場合や指示対

象が明確ではない場合は除いている．三人の属性や談話採録時間については，次の通りである．

表1 インフォーマントの属性

	生年 / 渡日時	現在居住地	収録時間
Y (女)	1913 年 / 22 歳	神戸市	2 時間
P (女)	1916 年 / 21 歳	神戸市	2 時間
B (女)	1923 年 / 17 歳	大阪市	2 時間

分析の手順として、まず、3-1. 節から 3-3. 節にわたって、各個人における指示詞の使用状況を個別に取り上げて分析する．個人別に分けて分析することは、それぞれのインフォーマントにおける運用の全体像をより把握しやすくなる利点があり、一世の言語に対する理解を深めるために適切な方法であると思われる．また、分析の方法において、ソ系指示詞とア系指示詞は関係づけて述べる必要があるため、便宜上一括して一つの節で扱うことにする．その結果をもって 4. 節では、三人の一世に見られる指示詞の運用を、相互比較しながら考察を行っていく．

### 3-1. Y 氏の場合

#### 3-1-1. 全体における使用状況

談話の中で運用されている指示詞の全体像を総括してまとめてみる．具体的には、出現形態、出現頻度、指示対象、接続形態などの項目に分け、全体的な指示詞運用の輪郭を捉えることを目的とする．以下、P、B においても同様に進めていく．

次の表 2 は、Y における指示詞の出現形態やその頻度をまとめたものである．

表2 Y—指示詞全般

		コ系	ソ系	ア系
名詞修飾		この (11)	その (61)	あの (22)
属性		こんな (7)	そんな (18)	あんな (9)
代名詞	もの	これ (3)	それ (17)	あれ (4)
	場所	ここ (7)	そこ (15)	あそこ (2)
方向		こっち (3)	そっち (1)	
副詞			そう (1)	
総計		31 17%	113 62%	37 20%

注) 各指示詞における機能及び品詞の用語は松岡(2000)を参考．以下同様．  
ア系の場所代名詞「あそこ」には、「あっこ」という語形も含まれる．以下同様．  
総計の                    で表した % は小数点以下を省略したものである．以下同様．

表 2 から分かるように、ソ系指示詞が 62% で一番多く、ア系指示詞が 20%、コ系指示詞が 17% 程度となっている。また、コ・ソ・ア系指示詞を通して名詞修飾の割合が高い。

### 3-1-2. コ系指示詞

Y におけるコ系指示詞は、表 2 で分かるように「ここ」、「こっち」、「この」、「これ」、「こんな」等といった形が確認される。話の中で現れる「ここ」は主に「故郷」（回想場面）、「現居住地」、「日本」等を表している。

- (1) ここは自分、生まれて育ったけども、...  
 [(昔、嫁ぎ先が決まり、嫁に行く前に思ったことを思い出している)(生まれた)実家は、(私が)生まれて、育った所だけど、(嫁いたら離れなければならない)]  
 談話例の中で、発話の意味が不明な場合や、文脈の補足が必要な場合にのみ〔 〕でその意味を表す。以下同様。

また、名詞修飾の「この」は「この頃」、「この前」などの使用が見られる中、若干不自然さが感じられる場合があり、次にその例を挙げておく。

- (2) Y: 八十三の時、高校入ったんや。  
 I: 高校ですね。  
 Y: は、高校や。ほいで、四年経て、今年卒業して。  
 I: 今年の 2 月卒業して。  
 Y: 八十七。  
 I: あの、...老人大学とか行こうと思った、必要だから入ったと言ってませんでした？  
 Y: 大学？  
 I: 何とか大学。  
 Y: 老人大学。  
 I: 老人大学受けようと...  
 Y: うん、老人大学行ったって、毎日行かへんらしいわ。一月、何回が行ったって。それで、この高校からな、行けとは言わないし。...今は、もう、家おってもあっちこっち... (話題転換)。  
 [(通っていた)夜間高等学校からも、(老人大学にまで)行けとは言われないし。]  
 は固有な名。以下同様。

上の談話例の中で最後の会話は老人大学に関する話題で、現在も勉強を続けているのかという相手 (I) の質問に対する Y の答えである。実線部の「この高校」は波線部の「夜間高校」のことを指している。談話の文脈指示において、連続する先行詞を伴わないコ系指示は、連続する後文の中で指示詞が指すものについての説明が行われる(白川 2001)。上の談話例 (2) で、「この高校」は点線で示した部分を意味すると思われるが、連続した文ではなく、コ系指示で表すには少し不自然な印象を残す。また、その後続く説明も見当たらない。日本語母語話者の使用とは異なり、Y におけるコ系指示はすでに話題に出ている事物が、話者の頭の中に浮かぶ事物を指して言う場合にも使用されていると見られる。

## 3-1-3. ソ・ア系指示詞

後節で述べる P, B と同様に, Y の談話の中でもソ系指示詞が占める割合は全体の指示詞の中で一番高い。その中で特に頻度の高い「そこ」、「それ」、「その」を, 指示対象とともに表 3 にまとめた。

特徴的な使用例として, まず, 表 3 から分かるように, 「そこ」はインタビューする側にも周知の場所を指す場合がある。また, 一番頻度の高い「その」の使用の中で注目したいのは特に「その時」の使用で, 「あの時」の例が皆無であることと対照的である。その他に, 「それ」は前文の内容を大まかに受けて指示する場合がほとんどである。

表 3 Y—ソ系指示詞

	指示対象
そこ (15 例)	渡日初期の仕事場 (2 例)・渡日初期の居住地 (2 例)・現居住地の近所 (3 例)・韓国の観光地 (2 例)・ロシア (2 例)等
それ (17 例)	前文の内容 (12 例)・息子の会社等
その (61 例)	~人 (15 例): 渡日時世話になった人・観光で利用した旅行会社の人・行商の人 ~時 (19 例): 渡日時・渡日後・インタビューの相手と約束のため話していた時

一方, 表 4 のようにア系指示詞はほとんど観念指示として使われており, 例文 (3) がその代表的な例である。

表 4 Y—ア系指示詞

あそこ (2 例)	渡日初期の仕事場の近所・夜間識字教室
あれ (4 例)	息子の仕事場・仕事の材料 (2 例)・過去に聞いた話
あの (22 例)	~人 (2 例): 渡日時世話になった人 ~先生 (2 例): 夜間識字教室の先生 その他, 身内 (2 例)・知り合い (2 例) ~牧場: 渡日初期の仕事場 (2 例) フィラー (8 例)等

(3) その人がタクシー乗って, 牧場行って探しよったんや。牧場, あそこは牧場が何軒もあるねん, 言うどこ。

〔(先に渡日した主人を追って, 主人が働いていた牧場を探しに行った時, 助けてくれた)その人と一緒にタクシーに乗って, 牧場行って探したんや。あそこは牧場が何軒もあるねん, と言う所〕

その中で, 特に表 3 の「その時」の指示対照にも見られるように「インタビューの相手と会っていた時」について, 以下, より詳しく述べていくことにする。

(4) I: あの時ね, 木曜日, もういっぺん連絡しようと思って, 仕事でちょっと出かけたんですよ。...(中略)... もういっぺん連絡すればよかったんですね。だから, 今日, ちょっと無理言って。

- Y: よう忘れるからね。その時、書いてくれた、ここ入れて、そのままほっといて、見せんと。  
 ... (中略) ... 後から電話がかかったら、びっくりした。あ、そうだったなと思って。  
 [(一週間前インタビューの日程を決めたが、I が確認の連絡を取ることができず、Y が忘れてしまったので、日を改めてインタビューを行っている状況)]
- Y: よう忘れるからね。あの時に書いてくれた(メモ用紙を)ここ(ポケット)に入れて、そのままほっといて、そのまま忘れた。(以下省略)]

例(4)は、インタビューの約束をした二人が当時のことを思い出しながらか話している場面である。日本語母語話者 I が「あの時」(点線部)と認識している指示対象に対し、Y は「その時」と指している。それには、Y において「その時」という表現が一つのかたまりとして定着したことに原因があるのではないかと考えられる。表3、表4から「あの時」の例は見当たらず、「その時」の使用頻度が高いことが分かる。つまり、「時」を限定する場合の指示詞はソ系になりやすい傾向が確認されたが、その影響で上のような発話が生じているように考えられる。

その一方で、ソ系指示詞を使用すべき所にア系指示詞を使用する例も多数見られる。

- (5) 結婚式、アメリカ行ってしたんや、あの婿さんイ、帰る月とか日とか決まって来たらしいんだ。それまで行かなあかん言うて。  
 [(孫がアメリカ在住の人と結婚することになり)結婚式を、アメリカに行ってしたんや。その婿さんが、アメリカに帰る日を決めて来たらしい。それまでに帰国しないとあかん言うて。]
- (6) あの先生ら、ほんまに、遠くから近くから来るのに。  
 [(夜間学校の)その先生ら、遠くから近くから来るのに。(自費で来てもらっていることが申し訳ない)]

談話例(5)(6)のいずれも、インタビュー側には知らない人物について、ア系指示詞を使用して話している。このような例について、談話例(4)では、指示詞と指示対象の組み合わせが一つのかたまりとなってしまったことにその理由を探ってみた。しかし、例(5)(6)のような場合は、指示詞と名詞の定型表現というより、表3と表4で分かるように、身内や親しい関係にある人の場合、ア系で指示されやすくなるのではないかとと思われる。つまり、修飾される名詞の形式ではなく、その名詞の持つ属性が上のような使用に関わる要因と考えられる。

## 3-2. P 氏の場合

### 3-2-1. 全体における使用状況

表5は、P における指示詞の出現形態やその頻度の全体像をまとめたものである。全体の使用状況を見ると、ソ系指示詞が63%を占め、ア系指示詞が30%、残りの7%をコ系指示詞が占めている。コ系においては場所代名詞(ここ)が、ソ系においては名詞修飾(その)が、ア系においてはもの代名詞(あれ)がそれぞれ一番高い頻度を見せている。

表 5 P—指示詞全般

		コ系	ソ系	ア系
名詞修飾		この (1)	その (58)	あの (8)
属性		こんな (3)	そんな (7)	あんな (13)
代名詞	もの	これ (2)	それ (15)	あれ (23)
	場所	ここ (5)	そこ (15)	あそこ (1)
副詞			そう (3)	ああ (1)
総計		11 7%	98 63%	46 30%

注) 「そう」はすべて「そういう」の形式を取るが、便宜上副詞とする。以下同様。

### 3-2-2. コ系指示詞

P の談話の中で使用されている「ここ」、「こっち」は過去と現在のいずれの場合においても、ほとんど「日本」を表す。その中で、特徴的な使用が見られた談話例を次に取り上げる。

(7) I: ...なんで日本へ来ることに。

P: 日本? 日本がええ言うてな, 来たんちゃうか. あの, うちの主人のね, 兄貴が来とったや, 先昔, あの, あれやないし, ズンメン証〔証明書〕言うてな, パスポートみたいに。

I: 証明書やね。

P: 証明書. あれなしで来た時あるらしいや. その時来たんで. ほいで, 来てからおって, ほいで  
① この弟が, ② こっち行きたい, 行きたい, 言うから兄貴が呼ぶわけや。

〔渡航証明書. それなしで(日本に)来れた時があったらしい. (主人の兄は)その時来たから. それから, うちの主人(弟)が日本に行きたい, 行きたい, 言うから兄貴が呼び寄せるわけや〕

I: あ, 弟を呼んだんですね。

P: あ... 呼んで, その時もこれ出せ, パスポート出せなんだからあかんねん。

〔うん. (日本に)呼び寄せたけど, その時は, パスポートなかったら(入国が)あかんねん.〕

上の談話例は、渡日の動機やその経緯に関して話している部分で、先に日本に来ていた兄にその弟である P の主人が呼び寄せられたという内容である。特徴的な使用としては、まず、①の「この」を挙げることができる。①「この弟」の指す指示対象は「うちの主人」(波線部)であるが、ここで使用されている「この」は、連続する先行詞を伴わないうえ、後続する文はパスポートに関する話題となり、P による「この弟」に関する説明が繰り広げられることも見られない。3-1-2. で取り上げた例(2)と類似した使用と見られ、話者が自分の頭の中に浮かんだ対象を指しながら話を進めていく際に出現するものと思われる。

次に、②の下線部に見られる不自然さについて考える。これは、指示詞だけに起因するものというより、指示詞と動詞の組み合わせにおける問題であるように思われる。すなわち、「こっち」という指示詞と「行く」という動詞の方向性が相反しており、ここから②の不自然さが生まれていると考えられる。場所における視点は現在に、移動動詞における視点は過去に、それぞれ置かれていると言えよう。このような例は B の場合にも多数見られるので、本節では例(7)

をもって現象の指摘に留まり、3-3-3. 節で合わせて考察する。

### 3-2-3. ソ・ア系指示詞

表 6 P—ソ系指示詞

	指示対象
そこ (15 例)	子供が卒業した学校 (3 例)・過去に居住した所 (5 例)・故郷 (2 例)等
それ (15 例)	相手の発話内容 (4 例)・子供の仕事 (2 例)・前文の内容 (2 例)・過去に居住した所 (2 例)等
その (58 例)	~時 (20 例): 渡日後・渡日前・疎開時 ~人 (5 例): 遠い知り合い・友達の一世代 ~子 (2 例): 韓国で暮らす孫 その他, 親戚 (3 例), 知り合い (3 例)等

ソ系指示詞は、前に言及した内容を大まかに受けて示す文脈指示が大部分である。また、「その」においては「その時」という形式としての頻度が高いことが見受けられる。

次に、ア系指示においては「あの」の使用が少なく、その代わりに「あれ」の比率が高い。また、ア系指示のほとんどは、過去の回想場面である。

表 7 P—ア系指示詞

	指示対象
あそこ (1 例)	神戸
あれ (23 例)	子供 (5 例)・近所に暮らす孫 (2 例)・従兄弟 (1 例)・渡航証明書 (2 例)等
あの (8 例)	~時 (1 例): 終戦後 ~子 (1 例): 近所に暮らす孫, ~人 (1 例): 主人の友達 その他, 友達の一世代 (1 例), フィラー (3 例)等

一方、3-1-3. 節で触れた Y の場合と同様、本来ならア系指示で表すべき対象にソ系指示が使用された例が幾つか見られ、以下に示す。

- (8) I: ハルモニも何か、牧場やとった言うてましたね。 の方で、ずっと。  
Y: あの背低いの。あー、そうや。 その人、そのおんなじどこや。  
[I: おばあさん (I と Y の共通の知り合い)も、何か、牧場やとった言うてましたね。  
 の方で、ずっと。  
Y: あの背低い人。あー、そうや。 あの人もおんなじ牧場や。]

上の談話例 (8) は共通の知り合いについての話題である。〔 〕の波線部のように「あの人」と言うべき対象が「その人」となっていることが分かる。つまり、ア系指示詞の代わりにソ系指示詞が使用されているのである。これについては、「その人」という表現の出現頻度もあまり高くない



いので、「その」という形式と「人」という名詞が一つのかたまりとして認識された可能性は低いと言える。表 7 から分かるように、P における「あの」の使用頻度は「その」より低く、そのうえ、名詞を修飾する場合は 5 例に過ぎない。すなわち、例 (4) のような 指示詞 + 名詞 (その + 時) の ‘ユニット’ (迫田 2001) とは性質を異にするが、名詞修飾の指示詞は その になりやすいといった傾向が認められるのではないか。

次に、ア系指示詞の使用に不自然さが見られる談話例があり、(9) (10) を取り上げる。

- (9) 今、死んでおれへんけど、友達が「世話すんねん。これしてみよ。悪いないで、悪いない」あの人に ...中略... 主人がそれ騙されて行ったら...  
 [今は死んでおれへんけど、(主人の)友達に「世話するから、これ(牧場)してみよ」と言われて、その人に主人が騙されて(牧場)に行ったら...]
- (10) 今、時代がおかしなととる。嫁さんも行けへんし、もらえへんし。あんな時代...  
 [今、時代がおかしなととる。(年頃の男女が)嫁にも行けへんし、もらえへんし。こんな時代...]

談話例 (10) は前後の文脈から考えると、コ系指示詞を使用した方が自然と思われる場合である。表 5 から P の指示詞全般を見ると、属性を表す場合に B, Y に比べて P においてはア形指示詞の使用が多いと言える。またア系指示詞の中でも「あれ」の使用に続いて「あんな」の使用も比較的に高い頻度を見せている。そのような形式面での使用頻度という背景とともに、「あんな」が持つ意味の領域にも注目すると、P の談話の中で「あんな」が使用されている例はすべてマイナス的な面を強調する場合であった。すなわち、何かに対する評価の気持ちが働く際、それが形式の選択に関わる可能性が例 (10) で垣間見られるのではないかと思われる。

### 3-3. B 氏の場合

#### 3-3-1. 全体的な使用状況

全体の指示詞の中で、一番多いのはソ系指示で、全体の半数以上 (54%) を占めており、そのあとをア系 (32%)、コ系 (14%) が続く。また、使用頻度の高い語形として、ソ系においては

表 8 B—指示詞全般

		コ系	ソ系	ア系
名詞修飾		この (5)	その (68)	あの (33)
属性		こんな (6)	そんな (19)	あんな (11)
代名詞	もの	これ (3)	それ (18)	あれ (32)
	場所	ここ (28)	そこ (78)	あそこ (28)
方向		こっち (5)		あっち (6)
副詞			そう (1)	ああ (1)
総計		47 14%	184 54%	111 32%

場所代名詞「そこ」、ア系においては名詞修飾「あの」、もの代名詞「あれ」、コ系においては場所代名詞「ここ」となっている。

### 3-3-2. コ系指示詞

Bの場合、「ここ」は「日本」、「現居住地」、「大阪」などを指している。その中で、「ここ」の指示する対象に次のようなものがあつた。

- (11) ローマ字やら、みんな、あんなのがしてるから、そこ行くねん、言うとなつた。ここも、あの、五組六組、ローマ字教えてやる。数字も教えてくれるし。ここで。  
〔(他の夜間高校で)英語などを教えてくれると~~いって~~、(友達が)みんなそこに行くと言つた。今通っている夜間識字教室でも、五組と六組ではローマ字(英語)を教えてくれるし、数学も教えてくれる。〕

上の談話例(11)の「ここ」(実線部)が指示している対象は、現在 B が通っている夜間識字教室(波線部)である。しかし、その学校は物理的に「ここ」と指示することが可能な場所とは言いがたい。この使用例については、次のような理由が考えられる。

まず、前に連続する発話で言及されている別の夜間識字教室を「そこ」(点線部)で表しているのと区別して、B が現在通っている学校を特に「ここ」と指しているということである。また、その際に自らに関わる対象をコ系で指示していることが分かる。Y の談話例(2)からは、話者の頭の中に浮かぶ対象を指して言う場合にコ系指示詞が使用される可能性が指摘された。B においても同様のことが認められるうえ、次のようなことが言える。すなわち、他の対象と比較しながら、心的な距離がより近い対象にコ系指示詞が使用されるのではないかと推測される。

### 3-3-3. ソ・ア系指示詞

他の一世と同様、全体の指示詞の中で「その時」という語形の占める割合が高いことが認められる。B においても「その時」は時間的な背景を表す際に使用される定型表現として定着しているものと考えられる。なお、「あの時」という語形は表 10 で分かるように 2 例しか見られなかった。

表 9 B—ソ系指示詞

	指示対象
そこ (78 例)	過去に居住した複数の場所 (43 例)・仕事場 (7 例)・夜間識字教室 (3 例)等
それ (18 例)	前文の内容 (6 例)・お金 (4 例)・食べ物 (3 例)等
その (68 例)	~時 (45 例): 渡日前・渡日後 ~人 (5 例): 過去の隣人・夜間識字教室の人 その他、知り合い (2 例)等

表 10 B—ア系指示詞

	指示対象
あそこ (28 例)	過去に居住した複数の場所 (11 例)・韓国 (5 例)・夜間識字教室 (4 例)・朝鮮学校 (2 例)・過去の仕事場 (1 例)等
あれ (32 例)	友達の一世 (6 例)・息子 (5 例)・兄弟 (3 例)・孫 (1 例)・徴用召集の葉書 (2 例)等
あの (33 例)	～時 (2 例): 渡日後・植民地時代 ～人 (9 例): 過去の隣人 その他, 友達の一世 (8 例)・息子 (2 例)・夜間識字教室の人 (2 例)・夜間識字教室の先生 (1 例)

まず、「そこ」の使用の中で次の例に注目してみる。

- (12) そこ来たら, ドブやら, それ作ったり売りよったわ。  
〔疎開で そこ に行った時 そこ 行って, 濁り酒, それを作って売ってたわ。〕

例 (12) の下線部は, 指示詞(そこ)と動詞(来る)の方向性が一致しないため, 不自然さが生じているものと思われる例である。これと類似した現象については, 3-2-2. で P の談話例 (7) (「こっち行きたい」)を取り上げているが, 指示詞における視点と動詞における視点が相反していることから生じる不自然さであった。言い換えれば, 指示詞の使用に関わる空間的基準(現在)と動詞の使用に関わる空間的基準(過去)の錯綜により, 以上のような談話例が生じたように考えられるのである。例 (12) においても指示詞(そこ)の空間的基準は現在の談話時点に, 動詞(来る)の空間的基準は過去に, それぞれ置かれていると言えよう。このような現象は, 過去と現在にわたって複雑に入り混じっている自分の経験をダイナミックに語る一世における 語り方 の一端が現れているものと思われる。

一方, 「あそこ」という場所指示については, その適用範囲に次のような対象が含まれていた。

- (13) 弟はあそこ学校行った時は, みんな, 日本の字な, 日本のカタカナやら, みんな知っとったらしいけど。  
〔弟は, 韓国の故郷にある学校に通っていた時, 日本語を全部(学んで)知っていたらしいけど。〕

「あそこ(あっこ)」が「韓国の故郷」を指すものとして使用されている場合は, 全部で 4 例ある。このような使用が見られる理由について, 次のような談話例からその手がかりを見つけることができると思われる。

- (14) うちらしゃべんのと, あっちのしゃべんのと。  
〔(日本に住んでいる)私たちがしゃべる韓国語と, 韓国に住んでいる人がしゃべる韓国語と(違う)。〕  
(15) あっちで漢字でも習うとるからな。  
〔(最近, 夜間識字教室に入ってきた人について)韓国で漢字なども習って来たからな。〕

例 (14) と (15) から見られる「あっち」という使用は, 一世の間ではもちろん, 日本語母語

話者の発話からも、度々韓国を指して言う場合に使われ、「向こう」などと同じ用法としてよく耳にする表現である。つまり、例(13)はそのような使用に影響され、同じア系指示詞である「あそこ」の持つ意味機能を拡張して使用したものではないかと考えられる。

なお、特に人が対象となる場合に使用される「あの人」、「あの子」、「あれ」などの対象は、本来ならソ系で表すべき場合がほとんどであった。これについては Y, P の談話例においても見られるもので、既に述べており、ここでは省略する。

#### 4. 考 察

これまで分析してきた三人の指示詞の運用について、もう一度その結果をまとめながら考察していくことにする。その際、三人の一世の間に存在する類似した傾向や相違点に触れながら指示詞運用の全体像を整理していく。

指示詞コ・ソ・アのそれぞれの使用頻度は三人とも類似した傾向を見せており、ソ系 > ア系 > コ系の順になっている。

その中で、特に、かたまつた定型表現として三人とも「その時」という形式の頻度が高いと認められたのに対し、「あの時」の使用は極端に少ない。つまり、「その時」はある話題の時間的背景を表すものとしてすっかり定着しているのである。さらに、これに関連すると思われる傾向として、ソ系とア系指示詞が指示する対象の属性がある。すなわち、「その」と結合する名詞は三人を通してほとんどの場合に「人」よりも「事物」である割合が高く、その一方、人が指示対象となる場合はソ系よりア系指示詞を使用する割合が高くなる傾向が認められ、例えば、「あれ」や「あの～」の場合、人を表す場合の使用割合が著しく高くなっている。このような傾向については、迫田(1998)に言及されており、抽象名詞にはソ系指示詞が、具体名詞にはア系指示詞が結合されやすいとしている。但し、一世の場合、定型表現は語彙的に固まったものが多く、例えば名詞の属性による規則性の影響力などは完全には認めにくい。ここでは、日本語を自然習得した一世の指示詞の運用において、一部の形ではありながら、明示的な形で日本語を学習した場合と類似した傾向が認められたという事実に意義があると思われる。

次に、特に人が指示対象となる場合についてより詳しく考察していく。まず、Yにおいてソ系で指示される人物は、すべて「一時的な出会いの人」であり、ア系で指示される人は「子供」、「親戚」、「夜間識字教室の先生」など身近な人物である。このような傾向は他の二人からも見られ、Pの場合、韓国で暮らし、ほとんど会うことのない孫をソ系で指示する一方で、現在日本で共に暮らしている孫は一貫してア系で指示しており、何らかの心理的な要因が関連していると思われる。さらに、Bにおいては、ソ系指示詞の全体的な使用率は他の指示詞に比べて圧倒的に高いが、指示対象が人である場合の使用は、全体の1割程度に止まり、「身内」や「友達」は含まれていな

かった。一方、ア系指示の場合、「あの」の約7割、「あれ」の約5割が「一世の友達」や「身内」など、心的距離の近い人物を示す場合に使用されている。したがって、ソ系指示詞とア系指示詞の使用割合において、まず、指示対象である名詞が人か否か が関わること、次に 心的距離(親疎関係) が関わる可能性が推測できる。前者については、先にも述べたように迫田(1998, 2001)で報告されたような 名詞による指示詞の使い分け と類似した傾向とも言える。しかし、後者については、まだ言及されているものが見当たらず、何らかの 心的要因 がソ系指示詞とア系指示詞の使用に影響している可能性が示唆されたのではないと思われる。ちなみに、これまでのいわゆる誤用分析から指摘されてきた現象は主にソ系指示詞を使用すべきところにア系指示詞を使用したものであった。しかし、一世の場合はその反対のケースも多く見られ、日本語学習者とは異なる傾向を見せている。

以上、ソ系指示詞とア系指示詞の使用に見られた特徴や、それに影響を及ぼしていると思われる要因について考えた。ところが、ソ系指示詞とア系指示詞においては、その使用領域が重なり合う場合が多いことに注意する必要がある。割合の差はあるが、同じ名詞にソ系とア系の両方の指示詞が適用されている場合が多く見られる。例えば、過去の居住先に「そこ」と「あそこ」、仕事や事物などを指す時に「それ」と「あれ」、同じ知り合いに対して「その人」と「あの人」の両方が使用されている場合があるのである。これについては、一世におけるソ系指示詞とア系指示詞の持つ意味領域が互いに重なり合い、その境界線が薄れていることが原因なのではないかという仮説を想定してみることにする。その際、ソ系とア系指示詞の領域が曖昧になった理由として、転移という視点からは、一世の母語の影響が有力な可能性を持つと考えられる。韓国語では、一般的に現場指示では コ:ソ:ア の三項対立が成立するが、文脈指示、概念指示の場合、ソ系とア系指示詞の使い分けがなくなる コ:ソ(ア) の二項対立となり、実際の運用ではほとんどが日本語のソ系に当たる形式に限られる結果となる。今回の対象となっている一世の談話は、話題の性格上、ほとんどが文脈指示、概念指示であり、その運用に見られるソとアの適用における重なりは、そういった母語が関わっている可能性も考えられるのである。しかし、母語を異にする多くの日本語学習者を調査した結果(迫田 2001) から、母語の影響と言いつけることは難しく、今後より詳細な分析や考察が必要であると思われる。

## 5. ま と め

これまでの結果を簡単にまとめると次の3点になる。

- 一、いわゆる 定型表現 が確認された。すなわち、特定の名詞(例えば「時」)は特定な指示詞(例えばソ系指示詞)と主に結合される傾向がある。
- 二、ア系指示詞の使用には何らかの 心的距離 が関わる可能性がある。

三、ソ系指示詞とア系指示詞は、その使用領域は境界線が曖昧であり、その原因については母語からの転移の他、より詳細な調査分析が必要とされる。

本文では、一世の指示詞の運用を取り上げ、その具体的な指示状況や対象などをあげながら全体像の輪郭を捉えることを試みた。その結果、大きく以上の三つの傾向が確認された。この結果から、一世の指示詞に見られる不自然さは一時的な誤用によるものではなく、何らかの体系の中でダイナミックに運用されているものであるように思われる。

一方、そのような深層にある言語体系の実態についてはまだ十分な資料や考察が足りない現状である。今後、指示詞運用の規則的な側面と不規則的な側面の両側に通じる一貫した説明が必要であると思われる。

### 参 考 文 献

- 任 栄 哲 (1993) 『在日・在米及び韓国人の言語生活の実態』, くろしお出版 .
- 生越直樹 (1991) 「在日韓国・朝鮮人の言語生活」『月刊言語』1991年8月号, 大修館書店 .
- 金 美 善 (1998) 「在日コリアン一世の日本語」『日本学報』17, 大阪大学文学部日本学研究室 .
- 久野 暲 (1973) 「コ・ソ・ア—『日本文法研究』より—」, 金 水 敏・田窪行則編『指示詞』, ひつじ書房 .
- 迫田久美子 (1998) 「日本語学習者における指示詞ソとアの使い分け」『第二言語としての日本語の習得研究』第1号, 第二言語習得研究会 .
- (1998) 『中間言語研究——日本語学習者による指示詞コ・ソ・アの習得』, 溪水社 .
- 松岡 弘・庵 功雄他 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』, スリーエーネットワーク .
- 白川博之・庵 功雄他 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』, スリーエーネットワーク .
- 野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子 (2001) 『日本語学習者の文法習得』, 大修館書店 .
- 堀口和吉 (1978) 「指示語の表現性」, 金 水 敏・田窪行則編『指示詞』, ひつじ書房 .